令和 ６ 年 ７ 月 ３０日		
資料提供		
担当課室	鳥獣害対策課	農作物病害虫防除所 紀の川駐在
担当者	岩倉	大谷
電　話	073-441-2905	0736-73-2274

病害虫発生予察注意報(第５号)について

令和６年度病害虫発生予察注意報（第５号）を別添のとおり発表します。

令和６年７月 30 日

令和６年度病害虫発生予察注意報（第５号）

和歌山県農作物病害虫防除所

１．病害虫名：カキ炭疽病
２．対象作物：カキ
３．対象地域：県北部
４．発生量：多
５．発生時期：５～11 月
６．注意報発表の根拠
１）県北部のカキ「富有」における７月中旬の発生ほ場率は 31%（平年５%）で平成 26 年以降で最も高い（表）。発病果率は 1.3%（平年 0.4%）と平年に比べ高い。

表 県北部における7月中旬のカキ炭疽病の発生状況

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	平年	令和6年（本年）
発生ほ場率(%)	0	6	6	6	12	0	0	6	6	6	5	31
発病果率(%)	0	0.1	0.2	0.1	0.2	0	0	3.2	0.1	0.3	0.4	1.3

注）調査ほ場数：16（品種：「富有」）

７．防除上の注意事項
１）発病枝（写真１）や発病果実（写真２）は伝染源になるため、見つけ次第切除してほ場外に持ち出し適切に処分する。６～７月に発生した新梢における病斑は特に注意する。
２）盛夏期には病勢が一時停滞するが、９～10 月に降雨があると再び発病が激しくなる。
３）防除適期は８月下旬～９月下旬である。前年に炭疽病が発生したほ場や現在発病枝がみられるほ場は防除を徹底する。また、台風が接近する場合や降雨が続くと予想される場合は事前に薬剤を散布する。できなかった場合は降雨後速やかに散布する。
４）同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤をローテーション散布する。
５）防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム https://pesticide.maff.go.jp）を参照し、適正に使用する。
６）排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場で発病しやすいため、環境改善に努める。

写真１　カキ炭疽病の枝病斑（矢印）
左：新梢、右：硬化した枝

写真２　カキ炭疽病の果実の病斑

和歌山県農作物病害虫防除所　紀の川駐在
電話：0736(73)2274